

# 光栄の森

2023年3月 毎月1日発行 第175号  
発行者 光栄プロテック 中川

## 3月に向けて

代表取締役 三田雅憲

3月を迎え、今期ラストスパートとなります。少しずつ、色々な仕事が入荷してきております。

コロナ禍の2年間、会社としては厳しい経営が続きましたが、その間、工場においては社員教育などの技術育成や、「やりなおしゼロ」をはじめとするアクションプランのキックオフ、それらを少しずつですがやってきたと思います。

又営業においては、業界誌への広告掲載から設計事務所やデザイン事務所への資料送付や、そこからの大きな現場へ繋がったの営業活動、又千葉白井工場での大手エレベーターメーカーの取引基本契約の締結や、千葉ショールームの設置、大阪では、京都の一流ホテルへの硫化イブシ色のスペックインや、広島や金沢などの遠方のリピート客の取引など、今後に繋がる流れができていきました。

又事務においては、当社社員のプログラム作成によるDX化と、大手電器メーカーさんとのDX実務の契約締結で一層の事務の効率化や、人事面においては大卒の新卒採用に関して、大阪・千葉で合計4名の内定確定者の実績を残してくれました。

各現場で仕事が少ない時期を使って日頃できなかったことを、現実にして頂いて次に繋げていってもらえたことは、本当に社長としてありがたく思います。

また社員に対する健康経営の取り組みに関しては、数年前より少しずつ作業効率や段取りを良くして生産性を上げながら、残業時間を減らす取り組みを進めています。

又有給が取得しやすいように上長から取得するよう指導し、又給与明細への有給表示を2023年1月より始めています。

又、年間の休日表を3月には社員全員に配布し、旅行計画などの予定を立てやすく考えております。

又、毎年の健康診断とブース担当者には、有機溶剤の特殊健康診断の実施や、各ブース内の臭気濃度の測定や、防毒・防塵マスクの使用奨励、中堅社員（社歴7年以上）の有機溶剤作業主任者免許の取得支援（受講費の支給）、また本社においては食事を中心とした栄養バランスを考えた社員食堂の運営や光栄の森スタッフさんの社報連載による「食事と健康」などの啓蒙活動を推進しております。

又今後は、産業医もしくはそれに類するメンタルケアの推進も考えていきたいと思っております。これらの取り組みを通じて社員が長く安心して務められる環境づくりを目指しております。

又この活動の一環として、枚方市からの「ひらかた健康優良企業」に承認頂きましたし、又昨年10月には経済産業省の「健康優良企業2023」を申請しています。

認定頂けるかは3月の発表を待たねばなりません、社員が健康で仕事と自分の趣味や家庭、地域活動の両立と、職業人として職人として頑張っていける企業づくりに私も尽力していきたいと考えています。

また職人という言葉が出ましたので1月の朝礼でもお話ししましたが、私が皆さんに求める職人像について少しお伝えたく存じます。

狭義の意味では、職人とは先輩や大将から指導されたり、盗み見て自ら身に付けた熟練技術によって手作業で物を作り出すことを職業としている人のことです。

広義の意味では、職人は「石屋」「左官屋」「ペンキ屋」などの「屋」を付けて呼ばれるが、職人自身は自分を職人とはあまり言わない。作業員には基本、誰でもなれますが、職人は高度な技術や知識、豊富な実績に応じた経験と優れた人間性や思いやり（仲間を想う気持ち、義理堅さ、人情味があるなど）が必要であります。本来の職人とは、そういう人たちを指します。

職人と作業者とは一般に同じような意味に使われますが、実際現場で働く人間にとってはその言葉の重さが全く違います。「精神力、技術力、そして体力」こういった力が非常に高い人のことを特に「職人」と呼ぶのです。職人は信用や信頼に敏感であることも知ってもらいたい。

あてにされた仕事に対して、相手が非常に満足する結果を残そうとしますし、やる時は非常に集中する。そのような人だからこそ、仕事も集まってくるのです。

皆さんにも今の自己に満足するのではなく、技術的にも知識的にもそして人間的にも、本業に信頼される職人的人間を目指して頑張ってください。